

都市の雨水管理

米国のグリーンインフラに学ぶ

ランドスケープアーキテクト (ASLA) 小出 兼久

第 4 回

ランドスケープアーキテクトにおいて低影ドには千件以上のパイオレンション領域が公道用に設置されている。その複数の改修現場が、その複数の改修現場における実践であるグリーンインフラストラクチャー、グリーンストリートは、1990年代に始まり、21世紀になって本格的に手法や指針、条例が開発されてきた。

グリーンストリートの先駆けとなったのは、ワシントン州シアトルやオレゴン州ポートランドである。両者は、雨水管理と合流式下水道からのオーバーフローを削減するために、行政が主体となってグリーンストリートを20年以上にわたって推

進してきた。ポートランドには千件以上のパイオレンション領域が公道用に設置されている。その複数の改修現場が、その複数の改修現場における実践であるグリーンインフラストラクチャー、グリーンストリートは、1990年代に始まり、21世紀になって本格的に手法や指針、条例が開発されてきた。

都市にグリーンストリートを普及させる(2)

トルやポートランドでは、雨は降雨強度が低く、持続時間が長いことが特徴である。つまり小雨が長時間にわたって降り続けることが多く、グリーンストリートによる雨の制御は圧倒されにくい。そのため、小さな装置でも十分に有効性がある。装置が街中に散在することで、下水道はオーバーフローしにくくなった。降

気象学と生態学、従来技術のバランス良い配合
グリーンストリートは、下流の水質保護と合流式下水道からの越流水 (CSO) 削減の両方に優れているが、全てのプロジェクトで性能が十全に期待できるのかと言えは、そうではない。シチュエーションによって生じる



住宅街のグリーンストリート。車道と歩道の間には雨水浸透域はくぼ地になっていて、車道や歩道の表面から流出した雨が流れ込む。

かということ在设计上、決定しなければならない。都市の公道用地は限られている。そのため、グリーンストリートは透水性舗装システムや地下貯留システムなどを工学的に追加するような、従来の技術と生態学的技術とのハイブリッドによって進めることが推奨されるのである。グリーンストリートの普及には気象学と生態学、そして従来技術のバランスよい配合が必要である。

筆者：小出兼久 (こい で・かねひさ) NPO法人日本ゼリスケープデザイン研究協会 (JXD A) 代表理事

備考：記事詳細は JXD A (<http://xenscape.jp.org>) の環境新聞＋コラム資料参照